

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	学校への出前授業事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課	図書・博物館			
施策	3-4	ながれやま市民文化の継承と醸成		主管課長	小栗 信一郎			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	小・中学生・高校生・各種団体	意図	学校教育や生涯学習の現場で、流山市の歴史や文化財について理解を深めてもらうため。
事業内容	小中学生の学習をサポートするために、博物館資料を持参して出前授業を実施する。小学校6年生を対象とした歴史学習（古代）と、小学校3年生対象の「昔のくらしと道具」を主とするが、各種団体を含めたその他の要望にも、個々に対応する。			
事業開始から現在までの状況変化	小学校3年生対象の「昔のくらしと道具」は積極的な周知ができていないものの定着した。また、社会科単元の位置づけが当初の4年生から3年生に移行したが、再び対象学年や学習時期の移行の動きがある。6年生対象の出前授業は、数年前から能動的に周知に努め、その効果があらわれてきている。その他の要望については、受動的である。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	出前授業参加者数	1,178	1,183	1,917	人	↑↑↑
②	小学校団体見学参加者数	1,108	1,100	915	人	→→	
③	職場体験	15	27	10	人	→→	
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）  
出前授業の周知が進み、実績が増加している。

事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)			
事業費(b)(円)			
うち一般財源			
職員給与費(c)(円)			
人役・職員(人)			
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
				コストの削減	A 削減の余地はない	
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	学校との連携を深める。	③取組における課題(Check)	学習時期移行に関する情報把握。出前授業に対応する体制の整備。
②H30に実施した取組(Do)	出前授業の周知を積極的に行い、事前の打ち合わせを密にすることに努めた。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	周知の時期や方法の見直し。